

大学生トレーナーの資格および進路に関する意識調査

A Consciousness research about Qualification and Career of University Student Trainer

体育学部健康科学科

河野 儀久

KAWANO, Yoshihisa

Department of Health Science

Faculty of Physical Education

体育学部体育学科

高山 慎

TAKAYAMA, Shin

Department of Physical Education

Faculty of Physical Education

体育学部健康科学科

飯出 一秀

IIDE, Kazuhide

Department of Health Science

Faculty of Physical Education

体育学部体育学科

江波戸智希

EBATO, Tomoki

Department of Physical EDUCATION

Faculty of Physical Education

体育学部体育学科

廣重 陽介

HIROSHIGE, Yousuke

Department of Physical Education

Faculty of Physical Education

体育学部体育学科

國友 亮佑

KUNITOMO, Ryousuke

Department of Physical Education

Faculty of Physical Education

体育学部健康科学科

中島 琢人

NAKAJIMA, Takuto

Department of Health Science

Faculty of Physical Education

京都産業大学共通教育推進機構

淡路 靖弘

AWAJI, Yasuhiro

Kyoto Sangyo University

Common Education

要旨：本学の学生トレーナーの資格・進路に関する意識調査をおこなった結果、本学で取得したい資格は、柔道整復師（84%）、第1希望とする卒業後の進路は、接骨院・整骨院（38%）、起業・開業の希望は、起業・開業は希望しない（44%）、トレーナーとして重要と思われる資質は、コミュニケーション能力（48%）、トレーナーとしての能力を磨くために努力していることは、現場でのトレーナー活動やトレーニング指導をしている（67%）がそれぞれ最も多い回答であった。また97%の学生が、高校時代に運動部に所属しており、95%の学生が、自身のスポーツ外傷・障害経験を有していた。

キーワード：大学生、トレーナー、資格、進路

I. はじめに

競技者が怪我をした後、元の競技により早く安全に復帰させることを目的としたリハビリテーションの必要性がスポーツ界で認識されてきている。この競技復帰を目的として行うリハビリテーションは、日常生活

に復帰させることを目的としたメディカルリハビリテーションと対比してアスレティックリハビリテーション（以下アスリハ）と呼ばれている。つまり、競技復帰を可能にするために様々な身体機能を獲得させることがアスリハの最終ゴールとなる。

近年では、安全に効率よくアスリハを遂行して選手

の競技復帰を目指すために、アスリハに携わる医師、理学療法士、アスレティックトレーナー（以下 AT）など様々なスタッフが関わり、それぞれの専門性を活かしながら選手の競技復帰に向けたアプローチが行われている。しかし、専門スタッフの役割や立場、あるいはそれぞれが教育を受けてきた環境などが異なるため、必ずしもそれぞれの専門スタッフが競技復帰やアスリハの進行について共通認識を持っているとは限らないといわれている¹⁾。

したがって、アスレティックトレーナー養成に携わる教育機関の使命として、トレーナーとしての専門教育はもちろん、それぞれの専門スタッフの業務範囲の理解と、組織の中で共通認識を持って業務を遂行していく力を養成してゆかなければならない。

本学は、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー（JSPO-AT）養成校として日本スポーツ協会（JSPO）より認定を受けており、JSPOの基準に準じたカリキュラムで教育を行っている。そして、NSCA認定CSCS認定校としてNSCA（National Strength & Conditioning Association）より認定を受けており、NSCAの基準に準じたカリキュラムで教育を行っている。また本学では、IPU Strength coach & Athletic Trainer Team（SAT）という学生トレーナー同好会を活用し、課外活動において実践的なトレーナー教育にも取り組んでいる。また本学では、学生トレーナーは全員SATに所属しなければならないというルールを設けており、学生トレーナーの実技・実践能力を客観的に評価し、ランク付けする仕組みを設けている。

廣瀬（2013）は、本学における健康科学科（柔道整復師養成課程）の学生を対象とした意識調査を行っているが²⁾、全学生トレーナーを対象とした研究はない。

そこで本研究では、大学生トレーナーを目指す資格と将来の目標に対してどのような意識を持っているかを調査し、今後の学生トレーナー教育に役立てるための基礎資料を収集することを目的として調査を行った。

II. 方法

1. 対象者

2019年度のSAT60名（1年生28名、2年生10名、3年生11名、4年生11名）を対象にGoogle Formsを用いてアンケート調査を行なった。アンケート調査は2019年9月18日に実施し、アンケート結果は教育・研

究目的以外には使用せず、回答は任意であること、個人は特定されないことを調査対象者に説明した。

2. アンケート項目

1) 学生基本情報

- ①学科、学年、性別、出身高校の所在地
- ②高校時代に運動部に所属していたか
- ③高校時代に所属していたチームにトレーナーはいたか
- ④自身のスポーツ外傷・障害経験の有無
- ⑤現在のトレーナー活動状況
- ⑥体育会所属チーム
- ⑦アルバイトの状況

2) 資格・進路に関する意識

- ①本学で取得したい資格
- ②卒業後の進路希望
- ③起業、開業の希望
- ④トレーナーとして重要と思われる資質
- ⑤トレーナーとしての能力を磨くために努力していること

3. アンケートの回答

回答が得られた項目について、回答数を人数当たりの相対値（%）で表した。

III. 結果および考察

1. 学生基本情報（表1）

- ①学科構成の平均はPH（健康科学科）84%、PP（体育学科）16%、性別は男子59%、女子が41%であった。出身高校の所在地については、1位：広島県（21%）、2位：岡山県（14%）、3位：山口県（13%）、4位：兵庫県（10%）、5位：愛媛県（7%）であった。

SATの構成員の80%以上が健康科学科である理由として、本学に入学を希望する段階からトレーナー希望の学生が多いことが影響していると思われる。

出身校の所在地が中国・四国地方に集中しているのは、実家に近い地域から大学を選んでいる傾向があると思われる。

- ②高校時代に運動部に所属していた学生は97%、所属していなかった学生は3%であった。

これは高校までの運動経験が、トレーナーを希望する動機となることに影響している可能性があることを

示している。

- ③高校時代に所属していたチームにトレーナーがいたのは35%、いなかったのは62%であった。

これは自身の部活動での外傷・障害の受傷経験を通して、トレーナーの必要性を認識するようになった可能性があることを示している。

- ④自身のスポーツ外傷・障害経験は、ある（95%）、ない（5%）であった。

これは自身のスポーツ外傷・障害経験があることがトレーナーを志す動機となっている可能性があることを示している。

- ⑤現在のトレーナー活動状況については、

1位：「体育会でトレーナー活動」（64%）、2位：「選手もトレーナー活動も特にしていない」（17%）、3位：「学外でトレーナー活動（アルバイト含む）」（9%）であった。

①の結果からもわかるように、SATの構成員の84%が健康科学科であることから、入学を希望する段階からトレーナー志望の学生が多いことが理由として上げられる。

- ⑥体育会所属先は、1位：陸上競技部（25%）、2位：サッカー部（18%）、3位：女子硬式野球部（9%）、4位：ラグビー部（8%）、5位：女子バスケットボール部と男子ハンドボール部（3%）であった。

- ⑦アルバイトの状況を業種別でみると、1位：飲食店（35%）、2位：フィットネスクラブ（10%）、3位：ガソリンスタンドとコンビニエンスストア（5%）であった。また「アルバイトをしていない」が30%であった。

これは70%の学生が、何らかのアルバイトをしており、経済的な負担を軽減する必要がある可能性を示している。

2. 資格・進路に関する意識（表2）

- ①本学で取得したい資格については、1位：柔道整復師（84%）、2位：日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー（JSPO-AT）（64%）、3位：National Strength & Conditioning Association Certified Strength & Conditioning Specialist（NSCA-CSCS）（41%）、4位：National Strength & Conditioning Association Certified Personal Trainer（NSCA-CPT）（34%）、5位：障がい者スポーツ指導員（31%）であった。柔道整復師が1位になった理由として、学生基本情

報①より、SATの構成の84%が健康科学科の学生であり、そのほとんどが柔道整復師取得を目指していることと関連している可能性がある。

また、JSPO-ATが2位になった理由として、学生基本情報⑤および資格・進路に関する意識②からもわかるように、スポーツチームのアスレティックトレーナーを目指すため、資格が必要であると認識している学生がいること、そのための実践経験を積むため体育会でのトレーナー活動を行っている学生がいることと関連している可能性がある。

それ以外のNSCA-CSCSおよびCPT、障がい者スポーツ指導員は本学が認定校となっていることと関連している可能性がある。

- ②第1希望とする卒業後の進路については、1位：接骨院・整骨院（38%）、2位：スポーツチームのアスレティックトレーナー（AT）（27%）、3位：一般企業（9%）、4位：専門学校進学（鍼灸その他）（7%）、5位：病院（6%）であった。

こちらも資格・進路に関する意識調査①からわかるように、84%の学生が柔道整復師免許取得を希望していることと関連している可能性がある。

- ③起業・開業の希望については、1位：起業・開業は希望しない（44%）、接骨院・整骨院の開業を希望する（30%）、3位：整骨院とトレーニングジムを併設させた施設を開業する（22%）であった。

44%の学生が将来開業を希望していないが、残り56%の学生は、何らかの形で開業または起業しようという意思があることを示している。

- ④トレーナーとして重要と思われる資質については、1位：コミュニケーション能力（48%）、2位：技術・実技実践能力（22%）、3位：状況判断能力（18%）であった。

- ⑤トレーナーとしての能力を磨くために努力していることについては、1位：現場でのトレーナー活動やトレーニング指導をしている（67%）、2位：積極的に人とコミュニケーションを図っている（54%）、3位：インターネットから情報を収集している（記事、画像、動画など）（48%）であった。

IV. 結論

本学の学生トレーナーの資格・進路に関する意識調査をおこなった結果、本学で取得したい資格は、柔道整復師（84%）、第1希望とする卒業後の進路は、接骨院・整骨院（38%）、起業・開業の希望は、起業・

表1 学生基本情報

質問	選択肢	1年 (N=28)	2年 (N=10)	3年 (N=11)	4年 (N=11)	平均
学科	PH (健康科学科)	82%	80%	91%	82%	84%
	PP (体育学科)	18%	20%	9%	18%	16%
	計	100%	100%	100%	100%	100%
性別	男	57%	70%	55%	55%	59%
	女	43%	30%	45%	45%	41%
	計	100%	100%	100%	100%	100%
出身高校の 所在地	広島県	21%	0%	18%	45%	21%
	岡山県	11%	10%	18%	18%	14%
	山口県	4%	30%	18%	0%	13%
	兵庫県	0%	20%	18%	0%	10%
	愛媛県	0%	10%	9%	9%	7%
	香川県	11%	0%	0%	9%	5%
	福岡県	11%	0%	9%	0%	5%
	熊本県	4%	0%	9%	0%	3%
	沖縄県	4%	10%	0%	0%	3%
	島根県	4%	10%	0%	0%	3%
	茨城県	0%	10%	0%	0%	3%
	京都府	7%	0%	0%	0%	2%
	鳥取県	7%	0%	0%	0%	2%
	徳島県	7%	0%	0%	0%	2%
	岐阜県	0%	0%	0%	9%	2%
	大阪府	0%	0%	0%	9%	2%
	佐賀県	4%	0%	0%	0%	1%
	奈良県	4%	0%	0%	0%	1%
	鹿児島県	4%	0%	0%	0%	1%
計	100%	100%	100%	100%	100%	
高校時代に 運動部に所属 していましたか？	していた	96%	90%	100%	100%	97%
	していない	4%	10%	0%	0%	3%
	計	100%	100%	100%	100%	100%
高校時代に 所属していたチームに トレーナーはいたか？	いた	36%	30%	27%	45%	35%
	いない	61%	60%	73%	55%	62%
	計	96%	90%	100%	100%	97%
スポーツでの 外傷・障害経験	ある	89%	100%	91%	100%	95%
	ない	11%	0%	9%	0%	5%
	計	100%	100%	100%	100%	100%
接骨院・整骨院 への通院経験	ある	89%	90%	73%	91%	86%
	ない	11%	10%	27%	9%	14%
	計	100%	100%	100%	100%	100%
現在の活動状況 (複数回答可)	体育会でトレーナー活動	61%	70%	64%	64%	64%
	選手もトレーナー活動も特にしていない	14%	10%	18%	27%	17%
	学外でトレーナー活動(アルバイト含む)	7%	0%	27%	0%	9%
	体育会で選手兼トレーナーとして活動	4%	20%	0%	9%	8%
	体育会で選手として活動	14%	0%	0%	0%	4%
	その他	4%	0%	0%	0%	1%
	計	104%	100%	109%	100%	103%
体育会所属先	サッカー部	36%	0%	27%	9%	18%
	陸上競技部	14%	30%	18%	36%	25%
	女子硬式野球部	0%	10%	9%	18%	9%
	ラグビー部	4%	30%	0%	0%	8%
	女子バスケットボール部	11%	0%	0%	0%	3%
	男子ハンドボール	0%	10%	0%	0%	3%
	バレーボール部女子	7%	0%	0%	0%	2%
	男子バスケットボール	0%	0%	0%	9%	2%
	女子ハンドボール部	0%	0%	9%	0%	2%
	男子硬式野球部	4%	0%	0%	0%	1%
	計	75%	80%	64%	73%	73%
アルバイトの状況 (複数回答可)	飲食店でアルバイトをしている	46%	40%	27%	27%	35%
	フィットネスクラブでアルバイトをしている	4%	20%	0%	18%	10%
	ガソリンスタンド	0%	0%	18%	0%	5%
	コンビニエンスストア	0%	0%	18%	0%	5%
	接骨院・整骨院でアルバイトをしている、 病院・老人ホーム・デイサービス	4%	0%	9%	0%	3%
	コンビニ	7%	0%	0%	0%	2%
	塾	0%	0%	9%	0%	2%
	小売業	0%	0%	0%	9%	2%
	ボルダリングジム	0%	0%	0%	9%	2%
	派遣	0%	0%	0%	9%	2%
	畑	4%	0%	0%	0%	1%
	計	61%	70%	82%	73%	71%
	アルバイトをしていない	36%	30%	27%	27%	30%

表2 資格・進路に関する意識

質問	選択肢	1年 (N=28)	2年 (N=10)	3年 (N=11)	4年 (N=11)	平均
本学で取得したい資格 (複数回答可)	柔道整復師	82%	80%	91%	82%	84%
	JSPO-AT	68%	80%	55%	55%	64%
	NSCA-CSCS	39%	50%	36%	36%	41%
	NSCA-CPT	21%	70%	27%	18%	34%
	障がい者スポーツ指導員	21%	50%	18%	36%	31%
	JPSU-AT	4%	30%	27%	18%	20%
	健康運動指導士	7%	0%	36%	9%	13%
	体育教員免許	4%	0%	0%	0%	1%
	小学校教員免許	0%	0%	0%	0%	0%
	幼稚園教員免許	0%	0%	0%	0%	0%
	未定	0%	0%	0%	0%	0%
	その他	0%	0%	0%	0%	0%
	計	246%	360%	291%	255%	288%
卒業後の進路希望 (第1希望)	接骨院・整骨院	32%	30%	27%	64%	38%
	スポーツチームのAT	39%	50%	18%	0%	27%
	一般企業	7%	0%	9%	18%	9%
	専門学校進学(鍼灸その他)	0%	0%	18%	9%	7%
	病院	4%	20%	0%	0%	6%
	スポーツ選手のパーソナルトレーナー	0%	0%	18%	0%	5%
	大学院進学	14%	0%	0%	0%	4%
	スポーツチームのS&C	4%	0%	0%	9%	3%
	フィットネスクラブ・スポーツクラブのインストラクター	0%	0%	9%	0%	2%
	介護施設	0%	0%	0%	0%	0%
	一般人(健康体づくり)のパーソナルトレーナー	0%	0%	0%	0%	0%
	教員	0%	0%	0%	0%	0%
	公務員(教員以外)	0%	0%	0%	0%	0%
その他	0%	0%	0%	0%	0%	
	計	100%	100%	100%	100%	100%
卒業後の進路希望 (第2希望)	接骨院・整骨院	25%	20%	18%	55%	29%
	スポーツチームのAT	29%	30%	27%	27%	28%
	病院	18%	20%	9%	0%	12%
	スポーツチームのS&C	4%	10%	18%	0%	8%
	一般人(健康体づくり)のパーソナルトレーナー	7%	10%	9%	0%	7%
	スポーツ選手のパーソナルトレーナー	0%	0%	9%	9%	5%
	専門学校進学(鍼灸その他)	14%	0%	0%	0%	4%
	フィットネスクラブ・スポーツクラブのインストラクター	4%	10%	0%	0%	3%
	介護施設	0%	0%	9%	0%	2%
	大学院進学	0%	0%	0%	9%	2%
	一般企業	0%	0%	0%	0%	0%
	教員	0%	0%	0%	0%	0%
	公務員(教員以外)	0%	0%	0%	0%	0%
その他	0%	0%	0%	0%	0%	
	計	75%	80%	82%	45%	71%
将来的に起業または開業を 希望しますか？ (複数回答可)	起業・開業は希望しない	36%	30%	55%	55%	44%
	接骨院・整骨院の開業を希望する	43%	50%	18%	9%	30%
	整骨院とトレーニングジムを併設させた施設を開業する	14%	30%	18%	27%	22%
	フリーランスのトレーナーを希望する	29%	20%	0%	0%	12%
	トレーナー派遣企業の経営を希望する	11%	10%	9%	0%	7%
	整体院の開業を希望する	4%	0%	0%	0%	1%
	トレーニングジムの開業を希望する	0%	0%	0%	0%	0%
	その他	0%	0%	0%	0%	0%
	計	136%	140%	100%	91%	117%
トレーナーに必要な資質として 特に重要と思われるものは 何ですか？	コミュニケーション能力	36%	40%	55%	64%	48%
	技術・実技実践能力	21%	20%	27%	18%	22%
	状況判断能力	36%	20%	9%	9%	18%
	医学的な知識	4%	10%	9%	9%	8%
	挨拶・礼儀	0%	10%	0%	0%	3%
	その他	4%	0%	0%	0%	1%
	体力	0%	0%	0%	0%	0%
	統率力	0%	0%	0%	0%	0%
	自身の健康管理能力	0%	0%	0%	0%	0%
	計	100%	100%	100%	100%	100%
トレーナーとしての 能力を磨くために 日頃どのような努力を していますか？ (複数回答可)	現場でのトレーナー活動やトレーニング指導をしている	54%	70%	82%	64%	67%
	積極的に人とコミュニケーションを図っている	46%	60%	55%	55%	54%
	インターネットから情報を収集している(記事、画像、動画など)	36%	30%	73%	55%	48%
	テーピング、手技等の練習をしている	46%	40%	27%	36%	38%
	セミナーや勉強会等に参加している	39%	40%	45%	9%	33%
	スポーツや体力トレーニングをおこなっている	4%	20%	27%	36%	22%
	専門書や論文を読んでいる	36%	10%	9%	9%	16%
	アルバイトをしている(他業種)	18%	20%	9%	9%	14%
	アルバイトをしている(医療、スポーツ、トレーナー関係)	7%	10%	0%	27%	11%
特に何もしていない	4%	0%	0%	0%	1%	
	計	289%	300%	327%	300%	304%

開業は希望しない（44%）、トレーナーとして重要と思われる資質は、コミュニケーション能力（48%）、トレーナーとしての能力を磨くために努力していることは、現場でのトレーナー活動やトレーニング指導をしている（67%）がそれぞれ最も多い回答であった。

また、学生本人のスポーツ外傷・障害の受傷経験がトレーナーを志す動機となっている可能性があることが示唆された。

参考文献

1. 笠原 政志・山本 利春 (2012), 競技復帰に関するスポーツドクターとアスレティックトレーナーの意識調査, 国際武道大学紀要No.28, pp43-54.
2. 廣瀬 文彦 (2013), 柔道整復師を養成する大学の学生の意識調査, 環太平洋大学紀要No.8, pp265-270.